

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成27年11月12日 (2015.11.12)

【公表番号】特表2014-527887(P2014-527887A)

【公表日】平成26年10月23日 (2014.10.23)

【年通号数】公開・登録公報2014-058

【出願番号】特願2014-532378(P2014-532378)

【国際特許分類】

A 6 1 M 5/24 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 5/24

【手続補正書】

【提出日】平成27年9月15日 (2015.9.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

【図 1】薬物送達デバイスの概略的な断面側面図である。

【図 2】用量設定動作が実行された後の図 1 の薬物送達デバイスの概略的な断面側面図である。

【図 3】組立て中の図 1 の薬物送達デバイスの概略的な断面側面図である。

【図 4】組立てが完了した後の図 3 の薬物送達デバイスの概略図である。

【図 5】図 4 の薬物送達デバイスを組み立てた概略的な斜視側面図である。

【図 6】A ~ C は、異なる動作状態にある図 1 の薬物送達デバイスの部材の概略的な断面側面図である。

【図 7 A】図 1 の薬物送達デバイスの部材の概略的な斜視側面図である。

【図 7 B】図 1 の薬物送達デバイスの部材の概略的な斜視側面図である。

【図 7 C】図 7 A および図 7 B に示す薬物送達デバイスの部材の概略的な断面側面図である。

【図 7 D】図 7 A ~ 7 C に示す薬物送達デバイスの部材の概略的な底面図である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 7】

カートリッジ 3 は、薬物 1 6、好ましくは薬物 1 6 の複数回分の用量を含む。本明細書で使用する用語「薬物」は、少なくとも 1 つの薬学的に活性な化合物を含む医薬製剤を意味し、

ここで、一実施形態において、薬学的に活性な化合物は、最大 1 5 0 0 D a までの分子量を有し、および/または、ペプチド、タンパク質、多糖類、ワクチン、DNA、RNA、酵素、抗体もしくはそのフラグメント、ホルモンもしくはオリゴヌクレオチド、または上述の薬学的に活性な化合物の混合物であり、

ここで、さらなる実施形態において、薬学的に活性な化合物は、糖尿病、または糖尿病性網膜症などの糖尿病関連の合併症、深部静脈血栓塞栓症または肺血栓塞栓症などの血栓塞栓症、急性冠症候群 (ACS)、狭心症、心筋梗塞、がん、黄斑変性症、炎症、枯草熱

、アテローム性動脈硬化症および／または関節リウマチの処置および／または予防に有用であり、

ここで、さらなる実施形態において、薬学的に活性な化合物は、糖尿病または糖尿病性網膜症などの糖尿病に関連する合併症の処置および／または予防のための少なくとも１つのペプチドを含み、

ここで、さらなる実施形態において、薬学的に活性な化合物は、少なくとも１つのヒトインスリンもしくはヒトインスリン類似体もしくは誘導体、グルカゴン様ペプチド（GLP-1）もしくはその類似体もしくは誘導体、またはエキセナジン-3もしくはエキセナジン-4もしくはエキセナジン-3もしくはエキセナジン-4の類似体もしくは誘導体を含む。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３３】

ホルモンは、たとえば、ゴナドトロピン（フォリトロピン、ルトロピン、コリオゴナドトロピン、メノトロピン）、ソマトロピン（ソマトロピン）、デスモプレシン、テルリプレシン、ゴナドレリン、トリプトレリン、ロイプロレリン、ブセレリン、ナファレリン、ゴセレリンなどの、R o t e L i s t e、２００８年版、５０章に列挙されている脳下垂体ホルモンまたは視床下部ホルモンまたは調節性活性ペプチドおよびそれらのアンタゴニストである。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００９０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００９０】

B．８）次の工程で、カートリッジ・ホルダ２とハウジング４とは、互いの方へ動かされ、互いに連結される。それによって、カートリッジ・ホルダ２とハウジング４とは、たとえば図５に示す溶接によって解放不能に連結される。カートリッジ・ホルダ２とハウジング４とは、たとえばレーザによって互いに溶接される。カートリッジ・ホルダ２とハウジング４とは、たとえば溶接面２２（図５）を介して互いに溶接される。これには、カートリッジ・ホルダ２とハウジング４とを互いに連結したときにカートリッジ・ホルダ２とハウジング４とを可変の相対的な位置に入れることができるという利点がある。したがって、ピストン・ロッド９と栓５とを可変の相対的な初期位置に入れることができる。特に、カートリッジ・ホルダ２とハウジング４とを互いに溶接することによって、ピストン・ロッド９と栓５との間の可変の所定の初期距離を確立することができる。これは、ハウジング４およびカートリッジ・ホルダ２の外面上の様々な個所に溶接面２２を適用できるために可能である。したがって、この場合、ピストン・ロッド９の長さの調整は不要である。